

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年2月10日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第1週から第4週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(1週～4週)4週 (R5.1.2～R5.1.29)	前回(49週～52週)4週 (R4.12.5～R5.1.1)	前々回(45週～48週)4週 (R4.11.7～R4.12.4)
1 インフルエンザ (421) [↑400]	1 感染性胃腸炎 (125)	1 感染性胃腸炎 (148)
2 感染性胃腸炎 (370) [↑245]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (87)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (116)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (71) [↓16]	3 手足口病 (25)	3 RSウイルス感染症 (84)
4 突発性発疹 (17) [↑1]	4 インフルエンザ (21)	4 手足口病 (38)
5 咽頭結膜熱 (11) [↓6]	5 咽頭結膜熱 (17)	5 突発性発疹 (16)
6 その他 (18) [↓21]	6 その他 (39)	6 その他 (25)
(合計 908)	(合計 314)	(合計 427)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したものの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は908件であり、189%(594件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	1905%	手足口病	72%
感染性胃腸炎	196%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、1月初旬をピークとして減少傾向となっておりますが、感染者数は高いレベルが続いています。
引き続き人との距離が確保できない場面でのマスク着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、感染に備えてあらかじめ市販の解熱剤や抗原定性検査キットなどをご準備ください。
少しでも体調が悪いときは休暇を取り、ご自身の重症化リスクや症状に応じて自己検査や医療機関を受診してください。
- ・お子さまの新型コロナウイルスワクチン接種については有効性と安全性にかかる国内のデータが集積され、日本小児科学会は発症予防、重症化予防等のメリットが副反応等のデメリットを大きく上回ると判断し、ワクチン接種を推奨しています。
大切なお子さまの命と健康を守るため、ワクチン接種のご検討をお願いします。
- ・県内全域でインフルエンザが流行期入りしています。新型コロナと同様に、手洗いやマスク着用などの感染防止対策を行うなど、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎が増加しており、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年3月10日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第5週から第8週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(5週～8週)4週 (R5.1.30～R5.2.26)	前回(1週～4週)4週 (R5.1.2～R5.1.29)	前々回(49週～52週)4週 (R4.12.5～R5.1.1)
1 感染性胃腸炎 (621) [↑251]	1 インフルエンザ (421)	1 感染性胃腸炎 (125)
2 インフルエンザ (348) [↓73]	2 感染性胃腸炎 (370)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (87)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (104) [↑33]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (71)	3 手足口病 (25)
4 突発性発疹 (26) [↑9]	4 突発性発疹 (17)	4 インフルエンザ (21)
5 その他 (23) [↑5]	5 咽頭結膜熱 (11)	5 咽頭結膜熱 (17)
(合計 1,122)	6 その他 (18)	6 その他 (39)
	(合計 908)	(合計 314)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,122件であり、24%(214件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎	68%	インフルエンザ	17%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46%		

3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、1月初旬をピークとして減少傾向が続いていますが、直近では下げ止まりの傾向がみられます。引き続き場面に応じた適切なマスクの着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、感染に備えてあらかじめ市販の解熱剤や抗原定性検査キットなどをご準備ください。少しでも体調が悪いときは休暇を取り、ご自身の重症化リスクや症状に応じて自己検査や医療機関を受診してください。
- お子さまの新型コロナウイルスワクチン接種については有効性と安全性にかかる国内のデータが集積され、日本小児科学会は発症予防、重症化予防等のメリットが副反応等のデメリットを大きく上回ると判断し、ワクチン接種を推奨しています。大切なお子さまの命と健康を守るため、ワクチン接種のご検討をお願いします。
- インフルエンザの流行は県内全域で継続しており、集団感染事例もみられます。新型コロナウイルス感染症と同様に、手洗いやマスク着用などの感染防止対策を行うなど、注意が必要です。
- 引き続き感染性胃腸炎が増加しています。集団感染事例も確認されており、トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などに手洗いを徹底いただくなど注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年4月14日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第9週から第13週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(9週～13週)5週 (R5.2.27～R5.4.2)	前回(4週～8週)5週 (R5.1.23～R5.2.26)	前々回(51週～3週)5週 (R4.12.19～R5.1.22)
1 感染性胃腸炎 (864) [↑ 98]	1 感染性胃腸炎 (766)	1 インフルエンザ (374)
2 インフルエンザ (678) [↑ 264]	2 インフルエンザ (414)	2 感染性胃腸炎 (286)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(128) [↑ 6]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (122)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (98)
4 突発性発疹 (19) [↓ 12]	4 突発性発疹 (31)	4 突発性発疹 (20)
5 咽頭結膜熱 (18) [↑ 11]	5 その他 (24)	5 咽頭結膜熱 (17)
6 その他 (18) [↓ 6]	(合計 1,357)	5 手足口病 (17)
(合計 1,725)		7 その他 (22)
		(合計 834)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,725件であり、27%(368件)の増となった。

増加した疾病	
インフルエンザ	64%
感染性胃腸炎	13%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、1月初旬をピークとして減少傾向が続いていますが、下げ止まりの傾向がみられます。
また、季節も変わりゴールデンウィークを控え、会食やお出かけの機会も増えていきますので、引き続き場面に応じた適切なマスクの着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、感染に備えてあらかじめ市販の解熱剤や抗原定性検査キットなどをご準備ください。
少しでも体調が悪いときは休暇を取り、ご自身の重症化リスクや症状に応じて自己検査や医療機関の受診を行ってください。
- ・インフルエンザ注意報は解除されましたが、引き続き集団感染事例も報告されており、注意が必要です。
新型コロナウイルス感染症と同様に、手洗いやマスク着用などの感染予防をお願いします。
- ・感染性胃腸炎は減少傾向がみられるものの感染が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などの手洗いを徹底いただくなど注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年5月19日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第14週から第17週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(14週～17週)4週 (R5.4.3～R5.4.30)	前回(10週～13週)4週 (R5.3.6～R5.4.2)	前々回(6週～9週)4週 (R5.2.6～R5.3.5)
1 感染性胃腸炎 (698) [↑ 13]	1 感染性胃腸炎 (685)	1 感染性胃腸炎 (648)
2 インフルエンザ (178) [↓ 379]	2 インフルエンザ (557)	2 インフルエンザ (386)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(141) [↑ 40]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (101)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (111)
4 RSウイルス感染症 (27) [↑ 24]	4 突発性発疹 (16)	4 突発性発疹 (26)
5 突発性発疹 (23) [↑ 7]	5 咽頭結膜熱 (15)	5 その他 (26)
6 その他 (26) [↑ 13]	6 その他 (13)	(合計 1,197)
(合計 1,093)	(合計 1,387)	

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,093件であり、21%(294件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	800%	インフルエンザ	68%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	40%		
感染性胃腸炎	2%		

3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、1月初旬をピークとして減少傾向が続いた後、3月下旬から下げ止まりしていましたが、4月下旬からは増加の兆しがみられます。
新型コロナウイルス感染症は5類感染症に見直されましたが、感染力の高さに変わりはありませんので、周りの方や重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、医療機関受診時等でのマスクの着用などの感染防止対策を行うとともに、感染時には無理せずに出勤や登校を控えましょう。
- インフルエンザは、冬シーズンが終わり減少傾向であるものの、集団感染は県内の保育所での発生のほか、県外の学校で大規模事例の報道があるなど、引き続き注意が必要です。手洗いや換気などの感染予防をお願いします。
- 感染性胃腸炎は減少傾向がみられるものの感染が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前などの手洗いを徹底いただくなど注意が必要です。
- 東部地区において、飼い犬の重症熱性血小板減少症候群が確認されました。また、西部地区では、つつが虫病が確認されています。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが効果的です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年6月16日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第18週から第21週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(18週～21週)4週 (R5.5.1～R5.5.28)	前回(14週～17週)4週 (R5.4.3～R5.4.30)	前々回(10週～13週)4週 (R5.3.6～R5.4.2)
1 感染性胃腸炎 (622) [↓ 76]	1 感染性胃腸炎 (698)	1 感染性胃腸炎 (685)
2 新型コロナウイルス感染症 (255) [—]	2 インフルエンザ (178)	2 インフルエンザ (557)
3 インフルエンザ (172) [↓ 6]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (141)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (101)
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (159) [↑ 18]	4 RSウイルス感染症 (27)	4 突発性発疹 (16)
5 RSウイルス感染症 (54) [↑ 27]	5 突発性発疹 (23)	5 咽頭結膜熱 (15)
6 その他 (104) [↑ 78]	6 その他 (26)	6 その他 (13)
(合計 1,366)	(合計 1,093)	(合計 1,387)

注) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、令和5年第19週からの報告件数。

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したものの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,366件であり、25%(273件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	100%	感染性胃腸炎	11%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13%	インフルエンザ	3%

3 コメント

- ・西部地区において、県内4年ぶりとなる麻しんの発生がありました。麻しんは、本年5月に国内での感染伝播事例が報告されるなど、全国で感染事例が増加しており、注意が必要です。麻しんは、感染力が非常に強く、手洗いやマスクでは完全に防ぐことはできません。予防方法としてはワクチンの2回接種が有効です。
- ・新型コロナウイルス感染症は、4月下旬からゆるやかな増加傾向が続いています。新型コロナウイルス感染症は5類感染症に見直されましたが、感染力の高さに変わりはありませんので、周りの方や重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、医療機関受診時等でのマスクの着用などの感染防止対策を行うとともに、感染時には無理せずに出勤や登校を控えましょう。
- ・インフルエンザは、冬シーズンが終わり減少傾向であるものの、引き続き県内外を問わず集団感染事例等が確認されています。また、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなど、様々な呼吸器感染症で増加傾向がみられており、注意が必要です。手洗いや換気などの感染予防をお願いします。
- ・感染性胃腸炎は例年に比べ感染者数が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前の手洗いを徹底しましょう。
- ・東部地区において、飼い犬の重症熱性血小板減少症候群に引き続き、人の日本紅斑熱が確認されました。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが効果的です。
- ・梅毒が増加しています。本年は5月末時点で既に昨年1年間の発生件数と同数報告されており、注意が必要です。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年7月14日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第22週から第26週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(22週～26週)5週 (R5.5.29～R5.7.2)	前回(17週～21週)5週 (R5.4.24～R5.5.28)	前々回(12週～16週)5週 (R5.3.20～R5.4.23)
1 新型コロナウイルス感染症(704) [↑337]	1 感染性胃腸炎 (801)	1 感染性胃腸炎 (844)
2 感染性胃腸炎 (671) [↓130]	2 新型コロナウイルス感染症 (367)	2 インフルエンザ (355)
3 ヘルパンギーナ (325) [↑305]	3 インフルエンザ (242)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (148)
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(272) [↑82]	4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (190)	4 突発性発疹 (26)
5 RSウイルス感染症(194) [↑116]	5 RSウイルス感染症 (78)	5 咽頭結膜熱 (18)
6 その他 (196) [↑85]	6 その他 (111)	6 その他 (21)
(合計 2,362)	(合計 1,789)	(合計 1,412)

注) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、令和5年第19週からの報告件数。

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は2,362件であり、32%(573件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
ヘルパンギーナ	1,525%	インフルエンザ	80%
RSウイルス感染症	149%	感染性胃腸炎	16%
新型コロナウイルス感染症	92%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43%		
咽頭結膜熱	41%		

3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、4月下旬からゆるやかな増加傾向が続いていましたが、6月末に入り顕著な増加がみられており、注意が必要です。新型コロナウイルスの感染力の高さに変わりはありませんので、周りの方や重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、医療機関受診時等でのマスクの着用などの感染防止対策を行いましょう。体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ヘルパンギーナが急増しており、県内全域でヘルパンギーナ警報を発令しています。また、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症など、様々な呼吸器感染症でも増加傾向がみられており、注意が必要です。ヘルパンギーナのウイルスにはアルコールが効きにくいいため、手洗いの徹底や換気などの感染予防をお願いします。
- 感染性胃腸炎は、例年に比べ感染者数が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前の手洗いを徹底しましょう。
- 梅毒が増加しています。本年は6月末時点で既に昨年1年間の発生件数以上の感染が報告されており、注意が必要です。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年8月18日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第27週から第30週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(27週～30週)4週 (R5.7.3～R5.7.30)	前回(23週～26週)4週 (R5.6.5～R5.7.2)	前々回(19週～22週)4週 (R5.5.8～R5.6.4)
1 新型コロナウイルス感染症 (2,034) [↑1,453]	1 新型コロナウイルス感染症 (581)	1 感染性胃腸炎 (652)
2 ヘルパンギーナ (379) [↑70]	2 感染性胃腸炎 (518)	2 新型コロナウイルス感染症 (378)
3 RSウイルス感染症(377) [↑204]	3 ヘルパンギーナ (309)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (175)
4 感染性胃腸炎 (346) [↓172]	4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (223)	4 インフルエンザ (138)
5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(209) [↓14]	5 RSウイルス感染症 (173)	5 RSウイルス感染症 (74)
6 その他 (273) [↑133]	6 その他 (140)	6 その他 (135)
(合計 3,618)	(合計 1,944)	(合計 1,552)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したものの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は3,618件であり、86%(1,674件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
手足口病 286%	咽頭結膜熱 52%
インフルエンザ 283%	感染性胃腸炎 33%
新型コロナウイルス感染症 250%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 6%
RSウイルス感染症 118%	
ヘルパンギーナ 23%	

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、6月末から顕著な増加がみられ7月末をピークに少し減少しているものの、引き続き感染者が多く報告されています。また高齢者など重症化リスクの高い患者の増加による医療負荷にも注意が必要です。
新型コロナウイルスの感染力の高さに変わりはありませんので、周りの方や重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、医療機関受診時等でのマスクの着用などの感染防止対策を行いましょう。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・西部地区を中心に手足口病が増加しており、8月9日付けで県内全域に手足口病警報を発令しました。乳幼児・小児に多く発症するため、注意が必要です。
- ・ヘルパンギーナ警報を発令しています。患者報告数はピークを越えましたが、引き続き注意が必要です。ヘルパンギーナのウイルスにはアルコールが効きにくいいため、手洗いの徹底や換気などの感染予防をお願いします。
- ・梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は6月末時点で既に昨年1年間の発生件数以上の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年9月15日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第31週から第35週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(31週～35週)5週 (R5.7.31～R5.9.3)	前回(26週～30週)5週 (R5.6.26～R5.7.30)	前々回(21週～25週)5週 (R5.5.22～R5.6.25)
1 新型コロナウイルス感染症 (3,059) [↑840]	1 新型コロナウイルス感染症 (2,219)	1 感染性胃腸炎 (732)
2 感染性胃腸炎 (329) [↓121]	2 ヘルパンギーナ (496)	2 新型コロナウイルス感染症 (602)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (264) [↓4]	3 感染性胃腸炎 (450)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (275)
4 手足口病 (244) [↑96]	4 RSウイルス感染症 (435)	4 ヘルパンギーナ (219)
5 インフルエンザ (242) [↑142]	5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (268)	5 RSウイルス感染症 (149)
6 その他 (393) [↑87]	6 その他 (306)	6 その他 (213)
(合計 4,531)	(合計 4,174)	(合計 2,190)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したものの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は4,531件であり、9%(357件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	142%	ヘルパンギーナ	67%
手足口病	65%	RSウイルス感染症	57%
新型コロナウイルス感染症	38%	感染性胃腸炎	27%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1%

3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、7月下旬をピークに感染者が減少傾向にあるものの、依然として多い状態が続いています。
新型コロナウイルスの感染力の高さに変わりはありません。エアロゾルを意識した換気や手洗い、近接した会話時や混雑した場所、医療機関へ行かれる際などの場面に応じたマスク着用により感染を防止するとともに、ワクチン接種を検討しましょう。
咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- インフルエンザが増加しており、集団感染事例も確認されています。新型コロナウイルス感染症と同様に、手洗い、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。
- 手足口病が増加しており、県内全域に手足口病警報を発令しています。また、ヘルパンギーナについても警報は解除されましたが、引き続き注意が必要です。どちらも原因となるウイルスにアルコール消毒が効きにくいいため、手洗いの徹底や換気などの感染予防をお願いします。
- 梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は6月末時点で既に昨年1年間の発生件数以上の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年10月13日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第36週から第39週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(36週～39週)4週 (R5.9.4～R5.10.1)	前回(32週～35週)4週 (R5.8.7～R5.9.3)	前々回(28週～31週)4週 (R5.7.10～R5.8.6)
1 新型コロナウイルス感染症 (1,409) [↓1,013]	1 新型コロナウイルス感染症 (2,422)	1 新型コロナウイルス感染症 (2,324)
2 インフルエンザ (575) [↑382]	2 感染性胃腸炎 (247)	2 感染性胃腸炎 (322)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(309) [↑101]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (208)	3 RSウイルス感染症 (321)
4 感染性胃腸炎 (235) [↓12]	4 インフルエンザ (193)	4 ヘルパンギーナ (301)
5 手足口病 (213) [↑26]	5 手足口病 (187)	5 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (203)
6 その他 (160) [↓113]	6 その他 (273)	6 その他 (342)
(合計 2,901)	(合計 3,530)	(合計 3,813)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は2,901件であり、18%(629件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	198%	RSウイルス感染症	60%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49%	新型コロナウイルス感染症	42%
手足口病	14%	ヘルパンギーナ	41%
		感染性胃腸炎	5%

3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、7月下旬をピークに減少傾向が続き、収束に向かいつつあります。なお、新型コロナウイルスの感染力の高さに変わらないため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、近接した会話時や混雑した場所、医療機関へ行かれる際などの場面に応じたマスク着用により感染を防止するとともに、ワクチン接種を検討しましょう。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・インフルエンザが増加しており、集団感染事例も継続的に確認されています。例年より流行が早まっていますので、新型コロナと同様に、手洗い、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が増加しており、県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒等の感染予防をお願いします。
- ・手足口病警報を発令しています。原因となるウイルスにアルコール消毒が効きにくいいため、手洗いの徹底や換気などの感染予防をお願いします。
- ・西部地区において、重症熱性血小板減少症候群、東部地区において日本紅斑熱が確認されています。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。
- ・梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は9月末時点で昨年1年間の15件を上回る25件の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年11月17日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第40週から第43週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(40週～43週)4週 (R5.10.2～R5.10.29)	前回(36週～39週)4週 (R5.9.4～R5.10.1)	前々回(32週～35週)4週 (R5.8.7～R5.9.3)
1 インフルエンザ (1,500) [↑925]	1 新型コロナウイルス感染症 (1,409)	1 新型コロナウイルス感染症 (2,422)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (519) [↑210]	2 インフルエンザ (575)	2 感染性胃腸炎 (247)
3 新型コロナウイルス感染症 (437) [↓972]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (309)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (208)
4 感染性胃腸炎 (271) [↑36]	4 感染性胃腸炎 (235)	4 インフルエンザ (193)
5 手足口病 (130) [↓83]	5 手足口病 (213)	5 手足口病 (187)
6 その他 (105) [↓55]	6 その他 (160)	6 その他 (273)
(合計 2,962)	(合計 2,901)	(合計 3,530)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は2,962件であり、2%(61件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
インフルエンザ 161%	RSウイルス感染症 73%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 68%	新型コロナウイルス感染症 69%
感染性胃腸炎 15%	ヘルパンギーナ 59%
	手足口病 39%

3 コメント

- ・インフルエンザが増加しており、県内全域にインフルエンザ警報を発令しました。例年より流行が早まっており、さらなる流行の拡大に注意が必要です。
新型コロナウイルス感染症は、今夏の流行は概ね収束となりましたが、冬シーズンの再流行に注意が必要です。いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。
- ・咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒等の感染予防をお願いします。
- ・西部地区において、重症熱性血小板減少症候群、東部地区において日本紅斑熱が確認されています。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。
- ・梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は10月末時点で昨年1年間の15件を上回る26件の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年12月15日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第44週から第48週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(44週～48週)5週 (R5.10.30～R5.12.3)	前回(39週～43週)5週 (R5.9.25～R5.10.29)	前々回(34週～38週)5週 (R5.8.21～R5.9.24)
1 インフルエンザ(4,332) [↑2,706]	1 インフルエンザ (1,626)	1 新型コロナウイルス感染症(2,383)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(765) [↑146]	2 新型コロナウイルス感染症 (627)	2 インフルエンザ (589)
3 感染性胃腸炎 (348) [↑14]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (619)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (344)
4 新型コロナウイルス感染症 (321) [↓306]	4 感染性胃腸炎 (334)	4 感染性胃腸炎 (317)
5 手足口病 (92) [↓102]	5 手足口病 (194)	5 手足口病 (249)
6 その他 (116) [↓23]	6 その他 (139)	6 その他 (252)
(合計 5,974)	(合計 3,539)	(合計 4,134)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は5,974件であり、69%(2,435件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	166%	手足口病	53%
咽頭結膜熱	106%	新型コロナウイルス感染症	49%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24%		
感染性胃腸炎	4%		

3 コメント

- ・県内全域にインフルエンザ警報を発令しています。例年より流行が早く、学校の臨時休業や保育所等での集団感染も多数報告されており、今後さらなる流行の拡大に注意が必要です。新型コロナウイルス感染症は、今夏の流行収束後、低いレベルで推移していましたが、11月末から増加の兆候が見られ、冬シーズンの再流行に注意が必要です。いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・梅毒が増加しており、注意が必要です。本年は11月末時点で昨年1年間の15件の2倍に迫る28件の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和6年1月19日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第49週から第52週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(49週～52週)4週 (R5.12.4～R5.12.31)	前回(45週～48週)4週 (R5.11.6～R5.12.3)	前々回(41週～44週)4週 (R5.10.9～R5.11.5)
1 インフルエンザ (2,646) [↓863]	1 インフルエンザ (3,509)	1 インフルエンザ (2,129)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(714) [↑56]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (658)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (514)
3 新型コロナウイルス感染症 (530) [↑287]	3 感染性胃腸炎 (279)	3 新型コロナウイルス感染症 (379)
4 感染性胃腸炎 (277) [↓2]	4 新型コロナウイルス感染症 (243)	4 感染性胃腸炎 (254)
5 咽頭結膜熱 (81) [↑28]	5 手足口病 (75)	5 手足口病 (91)
6 その他 (52) [↓35]	6 その他 (87)	6 その他 (99)
(合計 4,300)	(合計 4,851)	(合計 3,466)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は4,300件であり、11%(551件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
新型コロナウイルス感染症 118%	手足口病 77%
咽頭結膜熱 53%	インフルエンザ 25%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 9%	感染性胃腸炎 1%

3 コメント

- ・県内全域にインフルエンザ警報を発令しています。感染のピークは越えましたが、引き続き注意が必要です。
新型コロナウイルス感染症は、冬シーズンに入り、増加傾向が続いており、今後さらなる感染の拡大に注意が必要です。いずれも、手洗い、換気、場面に応じたマスク着用などの感染防止対策や、ワクチン接種の検討をお願いします。
- ・咽頭痛や発熱など体調が悪い場合や陽性が判明した場合は自宅で安静に過ごし、症状に応じて医療機関を受診される際は、事前に電話相談の上、受診しましょう。
- ・県内全域にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報を発令しています。手洗い、消毒、咳エチケット等の感染予防をお願いします。
- ・梅毒が増加しており、注意が必要です。令和5年は前年の15件の2倍に迫る29件の感染が報告されています。早期発見と適切な治療が必要です。
感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。